

## 平成 28 年度 第 1 回二宮町総合戦略評価委員会 議事要旨

開催日時	平成 28 年 12 月 9 日（金） 9:30～12:10		
開催場所	二宮町役場 2 階 第 1 会議室		
出席者	委員	出席 8 名 渡辺 訓任 委員、花上 美智子 委員、平田 光枝 委員、 古澤 有三 委員、後藤 伸 委員、脇 治 委員、樋口 徹雄 委員、 神保 智子 委員 欠席 0 名	
	町	政策総務部長	
	事務局	政策総務部企画政策課 3 名	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	4 人
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2. 委嘱状の交付</li> <li>3. 二宮町総合戦略評価委員会設置要綱及び二宮町総合戦略評価委員会運営要領（案）について</li> <li>4. 町長あいさつ</li> <li>5. 委員自己紹介</li> <li>6. 会長及び副会長の選出</li> <li>7. 議 題             <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）二宮町総合戦略評価システムの概要等について</li> <li>（2）二宮町総合戦略政策評価に対する意見等について</li> <li>（3）その他</li> </ol> </li> <li>8. 閉 会</li> </ol>		
配布資料	資 料 1 二宮町総合戦略評価システムの概要 資 料 2 二宮町総合戦略評価委員会実施要領 資 料 3 総合戦略政策評価シート（平成 27 年度実績） 資 料 4 総合戦略施策評価（平成 27 年度実績）結果一覧 参考資料 1 二宮町総合戦略評価委員会設置要綱 参考資料 2 二宮町総合戦略評価委員会運営要領（案） 参考資料 3 二宮町総合計画評価委員会委員名簿 参考資料 4 二宮町総合戦略評価委員会スケジュール 二宮町人口ビジョン 二宮町総合戦略 第 5 次二宮町総合計画 中期基本計画		

## 【議事要旨】

### (1) 二宮町総合戦略評価システムの概要等について

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 今回の評価は、28年度の進捗状況を意識しつつ、27年度時点での評価に留めるということによろしいか。また、本委員会の開催時期について、今年度は、決算委員会も終了し、予算策定の基本方針も出されてからの開催となったが、もう少し時期を早めることはできないか。今年度は総合戦略の開始年度であることから致し方ないとしても、29年度は、施策及び予算に本委員会の意見を少しでも反映していただきたい。
  - 「二宮町総合戦略」が28年3月完成ということもあり、今年度はスタートが若干遅れている。29年度は、今年度よりもスケジュールを2～3か月早め、スムーズに意見を反映できるようにしたい。
  - ◎ 今回は、あくまで27年度実績に対する評価とし、コメント欄で28年度の実績内容に触れるということによろしいか。
  - そうしていただきたい。先を見据え、28年度の実績に対する意見と併せ、今後どのように進めるべきかという視点で意見をいただきたい。
  - 評価をするために必要な資料が示されておらず、責任ある評価ができない。不足を補うために、町のホームページを確認したが、それでも具体的な内容が分かるものと、そうでないものがあり、どのように評価したらいいか疑問だ。国の5原則のうち、「自立性」は財政的な裏打ちがあるか否かが分からないと、評価できない。
  - 同感である。プロジェクトの内容が施策に落とし込まれた中での評価は、評価する側としても責任重大である。会議資料はいずれも文章化され、かつ、数値の部分が抜けており、そこからどのように評価すればいいのか疑問だ。膨大な資料を渡されればそれを読み込むのが大変だが、今回のように簡素化されていると、責任の部分でどうなのだろうかと思う。
  - できるだけ早く資料がほしかった。3～4年前に出席した会議では、会議当日に資料が配布されたこともあったので、そこから考えれば、かなり進歩していると思うが。
  - ◎ 個々の評価において、必要なデータがあれば、質疑応答の中で都度、事務局から説明してもらい、評価に繋げていくということによろしいか。
- (異議なし)

## (2) 二宮町総合戦略政策評価に対する意見等について

### ① 安心なくらしを守り、住み続けられる地域をつくる

・二宮町総合戦略評価委員会としての評価は、「1」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 目標値が数値化されていないものがある。「上昇」等の言葉で示されているものがあるが、数値化されていないと評価が難しい。
- 総合戦略の策定期間の関係で、27年度は基準値が実績となっており、比較できる数値がない。29年10月頃には、28年度の実績が数値として出てくるので、その時には基準値と比較できる。
- 「公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやすいまちづくり」は、健康づくりや教育との関連で、施策を見直す必要があるのではないかと感じた。今後の方向性に「対話の機会と時間をしっかりと確保し」と記載がある点は、評価できる。

「災害や犯罪に備える地域づくり」の目標として設定されている「地区防災マニュアルの策定」は、年度の作業の目標としてはいいが、大きな流れの中では、一つのステップにすぎないのではないか。LED化は財政面でも効果があり、また、それがきちんと施策評価で評価されていることも良い。ボランティア主催の勉強会がかなり盛況で、防災意識の高まりを感じているので、その点を災害対応力強化の視点に加えてはいかがか。
- 県でも健康や未病対策に取り組んでいるので、連携したらどうか。
- 地域包括ケアシステムが目の前に迫っており、地域コミュニティのあり方が問われている。その部分では、27年度の評価は妥当である。自主防災については、町の役割を明確にしてほしい。
- 「住み続けたいと思う町民の割合」が76.5%というのは、感覚的には非常に高いと思うが、これを周辺市町と比較してはどうか。人口減少が続いている中、人口が増加しているところはあるのか、転出者はどこへ行ったのか、そこと比べて何が劣っているのか、それを評価しないと進展しない。日本全体の人口が縮小していく中でも、二宮町の人口は減少しないことがいいと思うが、それは最終目標である。そこに向け、4本の基本目標が設定されていると思うが、その目標の設定の仕方、評価の仕方、そしてターゲットを明確にしないと、数字が一人歩きしてしまう。
- 評価としては、妥当だと思う。
- 人口増という目標はあるが、一方で、今住んでいる人が「住んでよかった」と思えるまちづくりをするという観点も必要ではないか。

「公共施設の総合的なマネジメントとコンパクトさを活かした暮らしやす

いまちづくり」は、公共施設の総延床面積を減らすことが必要だが、総合的マネジメントの点からは、町の中で公共施設をどうしていくかが見えてこない。住民が満足している公共施設なのか、どういった施設を投資してでも残していくのか、どのようにすれば益を生む使い方ができるのかを考えるべきである。また、今後の方向性で「住民とのワークショップ」とあるが、ワークショップの結果を実行に移せる体制を構築する必要がある。

「誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり」は、生きがいを感じて生きることが健康につながるので、行政が横のつながりを持ち、施策を連動させながら、進めていただきたい。

「地域コミュニティの醸成支援」は、資格やノウハウを持つ人材を活かしてきていないので、コミセンのあり方、人が集まる公共施設のあり方を検討していただきたい。

行政がやるべきことは、民がやることを応援することである。この総合戦略では、二宮独自の「人」を活用する施策が示されていない。

- ◎ ベンチマーク的なものが必要ではないかという意見があったが、その点について、事務局いかがか。
- 総合戦略では、できるだけ具体的で、分かる目標を設定するようにとされており、K P Iや数値目標はできるだけ具体的な数値で目標設定した。その数値の裏には、さまざまな考えがあるが、これだけの文章量では示せておらず、その点をご了解いただきたい。また、「上昇」等の曖昧な目標となっているものについては、今後、適切に見直したい。
- ◎ 内部評価は「1」となっているが、その点についてはいかがか。
- 国から言われている「自立性」は、経済的な裏打ちがないと判断できない。併せて、「地域性」の中で、人としての個を今後、どのように活かしていくかを考えていただきたい。
- ◎ その点については、[意見等]の欄に反映させていきたいと思う。
- 27年度は、数値の比較ができないということを考慮すると、1～3の評価をすることも難しいのではないかと思う。施策的にもう少し強化していただきたいという印象を持っているので、「1」は厳しい気もする。
- 他の基本目標と比べると、「1」と評価できるのは、このくらいではないか。
- ◎ 個別の意見は[意見等]の欄に反映するというので、評価は「1」としたい。  
(異議なし)

## ② 二宮の強みを活かした魅力ある暮らしを提案し、新しい人の流れをつくる

・二宮町総合戦略評価委員会としての評価は、「2」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 「二宮の強み」と記載されているが、周辺市町と二宮は何が違うのか。温暖な気候で、安心・安全で、住みやすい地域であるというのは、二宮に限った話ではなく、地域の特長ではないか。だとすると、地域全体で考えると、二宮には土地はなく、二宮単独で施策を考えるのは、極めて限界にきている。地域連携で考える必要がある。
- ◎ 総合戦略の策定時にも、地域連携を提起されたが、地域連携を総合戦略として進めるには問題があったように記憶している。その点について、事務局いかがか。
- 総合戦略策定時にも、地域連携の意見は出たが、周辺市町との調整に時間を要する状況であり、町単独でできる内容となった。広域という視点がなかったわけではないが、町ができること、やるべきことで総合戦略を構成している。
- 人口が1.7万人になったとき、町としての形は成立するのだろうか。
- 非常に難しい問題である。公共施設の再配置を進めているが、かつて人口が1.7万人だった頃の公共施設について調べたところ、ほぼ何もなかった。そこに戻る絵を画くことは、今の段階では難しい。しかし、現実問題として、人口が1.7万人になることは、かなり現実味を帯びており、いくら移住者が増えたとしても、希望的観測をもつのは、無責任であると考えている。
- ◎ ただ単に1.7万人だった頃に戻ることはできず、たとえば、空き家や老朽化した公共施設等、負のレガシーを背負わなければならない。人口を爆発的に増やすことができない中で、そのマイナスをいかに小さくするかを考える必要がある。
- 基本目標2はこの総合戦略の柱であり、できるだけ補強すべきである。地域連携も大事であるが、二宮の強みを活かした魅力あるまちづくりも重要だ。「二宮は素晴らしい」「二宮で生活するのは楽しい」と言わせるような提案をしていかなければならない。若い人の中にも、二宮は温暖で、子育て環境が他の市町より良いと思っている人がいる。今あるものを活かして、お金をかけずに、とれるアクションがあるはずだ。「温かい」という点を前面に出した施策が必要ではないか。
- 「にのみやLife」が、基本目標2のキーワードとなっているが、町民もまだピンときていない。町の強みについて、もっと深める必要がある。目標として、人数を明確に掲げていることは評価できるが、逆に言えば、そこ

に至る道筋をもっと明確にするべきだ。

- 「新しい人の流れをつくる」というところが、基本目標2のキーポイントである。町の情報発信力は弱い。町のホームページは新しくなったが、いつ見ても、同じ写真が使われている。さまざまな媒体を使いながら、「新しい人の流れをつくるんだ」という発信が必要である。

また、空き家バンクについて、空き家の実態調査で、どのような調査結果が出て、何を見直すのかという改善策の部分が文章中に出てくると、評価がしやすかった。

コミュニティスクールについては、地域と連携しながら、協働の視点を持って、進めてほしい。

- 空き家バンクの登録物件情報が3件しかない。制度として、問題があるのではないか。きちんと見直してほしい。今後、空き家をどうしていくのか、皆で考える必要がある。

セールスプロモーションについては、町がセールスプロモーションを行うと、多額の費用がかかるので、民間の力をうまく活用するべきだ。

地域連携は行政がやるのは難しいが、町民活動をしている個人はすでに連携している。行政は、住民サイドでの地域連携が進み、二宮でさまざまな活動が起きるよう、フォローができる体制づくりが必要である。

コミュニティスクールについては、ぜひ、地域の人材を活用したものにしたい。

- 空き家バンクは、最初から専門家を入れて、検討したほうがよかったと思う。調査で終わり、空き家バンクが機能していない。

公共施設は、頻繁に利用する人とそうでない人がいるので、PR等により、活用を進める必要がある。

周辺市町と比べると、駅周辺の公共施設の劣化が目立つので、町を挙げて、きれいな町にしてほしい。

- 空き家については、27年度に調査を行い、該当者に案内を送付し、ご登録いただいた。調査の結果、ストックとして有効に使えるものよりも、そうではないものが多いことが分かった。28年度はそれをどうしていくか、また、そうならないためにはどうすべきかを検討するため、司法書士や宅建協会等の専門家にも加わっていただき、委員会を立ち上げる。

シティプロモーションについては、大磯、平塚、二宮は同じような環境であると思うが、その中でも二宮は「人」がポイントである。先般、二宮が好きな人を募って、「にのみやL o v e r s」を立ち上げた。今後、都内等で町のPRを実施していく。

- 多額の費用をかけずにできるプロモーションもあるはずだ。ボランティアで町の語り部による町案内や老朽化している案内板等をきれいにする等、二宮町のファンづくりの方策を織り込んでいく必要がある。

- ◎ ソフト面、ハード面、打つべき方策はあるのではないかと、評価としては「2」でよろしいか。  
(異議なし)

③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶え、子育てを楽しめる環境をつくる

・二宮町総合戦略評価委員会としての評価は、「1」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務

- 内部評価と同感である。支える人材の部分が、将来、ネックになるのではないかと危機感があり、そこを充実させていく必要がある。
- ワーク・ライフ・バランスについては働き方の問題であるので難しいが、育児に積極的に関わる職員の支援等、少しでも子育てを支えるような環境の実現に努めていただきたい。方向性は間違っていない。
- 支える人材という点について、出生率向上のためには、2人以上出産する女性を増やすということだが、町内に産科がなく、また、第2子出産時は実家に帰省しない人が多いことから、一人目の子どもの預け先や、病院の付き添いをしてくれるような妊婦の心の支えになる人材が必要である。
- 人材は課題であると認識している。しかし、町単独で取り組めることには限りがある。保育園等の人材に対する支援として、待遇改善等に取り組んでいるところもあるようだが、実際、目標として掲げてはいるものの、取り組みとしては、難しい面が多い。ただ、できるところからということで、駅前保育園の設置や一時預かりをより預けやすくする等の取り組みを進めている。
- あえて無認可で運営している保育園を誘致できないか。個性的な保育をしているので、人を呼ぶと思う。
- おもしろい取り組みであるとは思いますが、町として、誘致は難しい。
- 県内で2番目に小さい町である。何かに特化しないと、光らない。教育は非常に大事で、特色ある施設の誘致は、いいと思う。
- 「役場男性職員の育児休業割合」を10%にするというのは、何を基準にしているのか。それは、妥当な数値なのか。
- 10%が妥当か否かという判断は難しい。ただ、現状0%なので、それを仮に50%にすることに現実味があるかということも踏まえて、10%に設定している。もし、仮に来年度30%という結果が出たら、見直す議論もあるかもしれない。何かを元にして、設定したものではない。
- ◎ 内部評価と同じ「1」でよろしいか。  
(異議なし)

#### ④ 二宮町で安心して働き、仕事を生み出しやすい環境をつくる

・二宮町総合戦略評価委員会としての評価は、「1」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 「二宮町民の就業者数」は、二宮町内の事業所で働く人の割合か。
- そうではない。働いている町民の割合であり、職場は町内外問わない。「身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出」のKPIの指標である「二宮町における従業員数」が町内で働く人の数である。
- 従業員数の中には、高齢者が生きがいのために働いている人数も入っているのか。
- ここで言う「従業員数」の定義を持ち合わせていないので、確認し、後日回答する。
- 「二宮町民の就業者割合」が54.3%ということは、町民の半分以上が就労していることになるが、これは数値として高いのか。
- 近隣市町の状況も含めて、確認の上、後日回答する。
- 学生の起業支援等、活性化の後押しができるといい。また、アーケードをシャッター街にしない、商店の皆さんに頑張ってもらったための後押しをしたい。
- 一度、シャッター街になったところには、新たな事業者が入らないのが現状である。店舗として使わなくても、貸さない所有者もいるし、住居にする人もいる。また、学生ボランティアを募って活性化をしたくても、参加者が集まらないのが現状だ。
- 定期的な催し物を実施するのはどうか。
- 来年、菜の花のシーズンに、北口で短期間ではあるが、イベントの実施に向けて、話が進んでいる。
- 農業の振興はいかなものか。予算も限られているので、メリハリが必要だ。この町はベッドタウンとして発展してきたが、今後も住みやすい町にするために予算が使われるべきではないか。
- 二宮ブランドに育てることを前提に支援が必要ではないか。ブランド化するために、農業に取り組む方々をどのように支援するのが見えない。ところで、オリーブはどのようになっているのか。
- オリーブは、商工会が中心となって、オリーブ茶とオリーブの新漬を商品化していこうとしている。
- 起業支援といっても、芸術家、彫刻家といったアーティストに住居兼工房を町内に構えてもらい、新たなビジネス展開を支援する市町村も増えている。そうしたところに目を向けてもいいのではないか。



- 5件起業されたということであるが、これはどのような業態なのか。傾向や経験を今後活かしていただけたらと思う。
- 担当課に確認する。
- 高齢の方が働ける環境づくりも強化していく必要がある。また、農業は、町の景観の一つであると思う一方で、ものをつくるのと売るのは違う。菜の花に合わせて、九州の菜の花のオイルを売ってもいいと思うのだが。
- 町の総生産を図る指標はないのか。
- 町のGDPに相当するものを把握するための調査を町では行っていないが、REASASで、ある程度のお金の流れは把握できており、大まかに申し上げれば、サラリーマンの方が町外で稼いできたお金を、平塚等の町外で使っているというのが現状である。
- 今の農業者は地域ブランドではなく、自分のところでブランド化し、営業し、直接自分たちの収入にしている。町が実態を調査して、マニュアルを作成し、そして、どのように支援したらいいかを検討すべきではないか。  
また、まちづくり活動を大学生とするときには、受入側に、大学生は卒業すると終わりで、参加メンバーが次々変わっていくのをどう繋げるかという視点が必要である。今後、インターンシップの受入もあると思うが、そのあたりについても、研究していただきたい。

### (3) その他

次回の委員会については、日程調整後、改めて案内する。

【以上】